障害者支援施設「沖縄中央療護園」（沖縄県北中城村）

「リフト」×「インカム」が相互補完

「負担軽減・ケアの質向上」×「生産性向上」を実現

障害者支援施設「沖縄中央療護園」（沖縄県北中城村、沖縄中央福祉会＝安里富士子理事長）は、介護リフトなどとあわせて、インカム導入にも取り組んだ。一斉に、同時に職員間コミュニケーションを図ることによって職員同士をうまく連携させ、ノーリフティングによる職員の負担軽減や入所者の快適性とともに、生産性も飛躍的に向上させた。

職員を守るための機器活用について話す又吉副施設長（右）と大山係長

「入所者も、職員も歳をとった」を乗り越えるために

沖縄本島中部の北中城村にある障害者支援施設「沖縄中央療護園」は、1998年に開設。副施設長の又吉栄氏は「利用者も歳を取り、職員も歳を取った」と、加齢に伴い入所者への介助量が増え（平均入所者年齢57歳。平均障害程度区分5・5）、支える側の職員平均年齢も50歳代になってきたと語る。職員24人中21人と9割近くが腰痛を訴える。

「このままだと職員の腰痛が悪化し、離職という悪循環に陥る。対策を考えた時にノーリフティングがあった」と又吉氏はいう。

ノーリフティングの取り組みは2年前、リハビリ職のため、床走行の移動式リフトをデモ導入したことに始まる。

理学療法士の大山直人係長は「最初は移乗に8分を要するなど『とてもじゃないが実用的でない』が率直な感想」と振り返る。「ただ、慣れてくると4分程度で移乗でき、業務後の疲労感や痛みがないことに気づいた」という。現在では、リハビリ職だけでなく全職員で使用。職員の「移乗はキツイな」といった精神的負担が軽減できたことや、入所者の筋緊張がほぐれるなどの効果も見られた。

インカム活用は有効と嶺井係長

リフト機器導入と使用判断の明確化

機器の使用判断基準は①重心移動できる人②自立や座ることができる人③自立や座ることのできない人――の3段階に分け「自立や座ることができる人にはトランスファーボード」「自立や座ることのできない人にはリフト」などを目安にした。

現在、床走行リフト「バイキング」2台、「ゴルボ」3台、天井走行リフト「リコロール242ES R2R」1台、「リコロール200」12台（いずれもリコ社製）など、居室、脱衣場、移乗などあらゆる場面で活用されている。ほかにもトランスファーボード2枚、フレックスボード3枚など、ノーリフティングのための機器を導入した。

一般に、沖縄へリフトを届けるのは送料がかかり、メーカーによるデモ機対応が難しい現実がある。そうした中で同施設が恵まれていたのは、リコ社製リフト取扱いメーカー「シーホネンス」（大阪市、増本龍樹社長）の沖縄営業所があったことが大きい。

リフトで入浴介助の時間も一定に

「インカム」効果をケア時間に

また同施設では、職員の業務効率を向上させ、生産性を高めるためインカムも導入した。18年6月に看護職・職員のために15台を、現在では全員分の20台を導入。背景には入所者居室が2階・3階にあり、職員の適宜配置や移動を最適化する必要があった。導入にあたって、中継器設置などWi―Fi工事も実施し、通信環境も整えた。

一斉に呼び掛けてハンズフリー会話ができる効果は高く「対応が急がれるが職員が不足しているフロアから全員に呼び掛け、対応可能な職員が応援に駆け付ける」ことができるようになった。

療護課係長の嶺井裕人氏は「障害者施設の全国大会の事例発表で、インカムによる成功事例を知り、導入を検討するようになった。発表は最優秀賞を受賞するほどの優れた内容で、各地でインカム活用する施設が広がった」と、全国的なインカム人気を説明する。

「生産性高める会話」をマニュアル化

嶺井氏は「インカムは便利で有効である一方、使う側の気が緩んで無駄話をしてしまい、それを全員が聞かされるような問題もあった」と振り返る。

そこで同施設では、思い思いに発言せず①依頼者が今の状況を説明②誰にどうしてほしいか発言③対応できる人が名乗ってから行動――といった流れをマニュアル化することで、業務ツールであることの認識を高め、生産性を高める会話に統一できた。

「顔が見えないので、全員で会話している意識が持てず、会話が一方通行になりがち。自分の状況だけでなく、相手の状況を確認することが大切」と嶺井氏。

2階と3階で相互に連携がとりやすい

「リフト使わない派」を推進派に

順風満帆にノーリフティングと生産性向上が成功したようだが、曲折もあった。その一つが「リフト介助は人間的でなく、冷たい」という思いから、リフトを使用しない職員がみられたこと。

そこで18年には「今いるスタッフを大切にしたい。長期的視点からの設備投資をする」という施設長らの経営層の思いを込めて、施設長より「ノーリフティングの取り組みをする」という強いメッセージを全職員に発信した。

また、リフト活用に疑問をもつ職員には、お互いに意見を出し合った。施設側からは「リフトが冷たいは健常者の視点。むしろリフトでの移乗介助は本人が安楽であり、『大変で申し訳ない』といった心理的負担も少ない」と一貫して丁寧に説明した。

使用をためらっていた職員も、根底には入所者本人が「辛そう」「怖いのでは」など相手を思いやる優しさだったため「本人のためなら」と理解が広がり、現在ではノーリフティング推進役となっている。

就業時間の一定化など「働き方」で効果も

具体的な業務ルーティンでの効果として、大山氏は「例えば入浴介助をリフトなしで対応した場合、想定以上の時間がかかることがよくあったが、リフトを使用すれば終了時間はおおむね一定になる」と、就業時間が守りやすくなるなど、働き方改革の面でも優れると話す。また、「慣れれば女性一人でも移乗介助が安全にできる。入所者の体格の大小でなく、人が人を持ち上げてはいけないことを現場に周知することができた」と手ごたえを感じている。

イーアス

作業療法士と手すり共同開発

負担の少ない起き上がりを実現

「オキルンバー360」

福祉用具の開発・販売を行っているイーアス（埼玉県越谷市、武田二郎社長）は、木製ベッドや折りたたみベッドからの起き上がりを支援するひじ台付き置き手すり「オキルンバー360」を4月より販売を開始した。

同商品は医療法人敬愛会リハビリテーション天草病院（埼玉県越谷市、天草弥生院長）の杉本和也氏（作業療法士）と共同開発した。ひじを支点に伸展筋群を活用し、全く新しい起き上がり動作で、最小限の負荷で自立での離床を実現する。

「オキルンバー 360」と杉本氏（左）、武田社長

使い方は、ベッドに寝た状態で脇を25～35度に軽く開き縦手すり部分を握る。顎を引きながら、ひじをひじ台に押し付ける力と腹筋を使って斜めに体を起こしていく（写真1）。

（写真1）ひじをひじ台にあてて、テコの原理で起き上がる

「起き上がれないのはカがないから？」

杉本氏は「起き上がれないのは力がないからだと思う人も多いが、それは誤り」と指摘する。「起き上がり動作は、簡単そうに見えるが、実は難しい。腹筋と背筋を使いながら上体を起こして、さらに体の向きを回転させながら足をベッドの外に出す『ひねる動き』を加える必要がある」と説明する。

元気な人だと腕の筋肉を使って無理に起き上がることができてしまうため、負荷に気づきにくい。また、手すりの握り方も起き上がりやすさに関係があると杉本氏。「一般的なベッドサイドに置く手すりは横に棒が設置されている『ハシゴ型の手すり』で、鉄棒で逆上がりをする様に順手や逆手で握る。しかし、これでは手首が回転せず、体をひねって起き上がりにくい。体を引き寄せる動きだけならば問題ないが、よりひねりの動きをしやすくするため親指が天井を向くよう縦手すりの形にした」。

また同社の福祉用具専門相談員浅子浩之氏の意見から手すり部分は波状のディンプル加工を施し、手にフィットして力を入れやすい（写真2）。

さらに、手すりをつかんで回転する際に、ひじが宙に浮いたままでは力を入れにくいため、ひじ台を設置。ひじを押し当てる力を活用してテコの原理で、スムーズな起き上がりを支援する。

また、棒手すりを3本にすることで男女差があっても使いやすい位置で握ることができる。

「在宅では理学療法士や作業療法士が常時見ていることができない。人の手を借りずに生活するためには欠かせない福祉用具。介護や医療現場の人にも、起き上がりにかかる負荷をしっかりと理解してもらい、より多くの人に少ない負担で自立した起き上がりを実現してほしい」（杉本氏）。

武田社長は「認定調査票の寝返り起き上がりにチェックがある方にはぜひ体験してほしい。今後も、利用者の生活を豊かにする商品を考えていきたい」と話している。

販売価格は8万8000円（税抜）。TAISコード貸与マーク取得済。

ベッド、マットレスを含めた高さは、30～55cmまで対応。

問合せは同社（☎048・963・2009）まで。

（写真2）ディンプル加工を施し、握りやすい

商品のご案内

自動で2カ所の情報収集「TPZ－D553」

―ケンウッド―

2つのチャンネルから切り替え不要で交互に自動受信が可能な「セカンドPTT」を搭載。ユニット間やフロア間の会話を事務所で受信できるので、全体の状況を把握しやすくなる。

厚さ約25㎜と薄型設計で、持ち歩いても業務の邪魔にならない。装着したまま入浴介助ができるように、1mの水深に30分つけても浸水しない規格に適合。受信可能距離は障害物が多い屋内でも最大1kmと広範囲。

最長18時間の連続使用ができるほか、乾電池でも使用できるため、災害時など充電ができない場合でも活用可能。

実勢価格：3万2,000円～

☎：0120-2727-87

業界最小・最軽量「DJ－PX7」

―アルインコ―

業界最小・最軽量クラスのインカム。本体サイズは幅4.2cm、高さ5.3cm、厚さ1.7cm。重量は約50gでピンマイクのように襟元につけて使用しても邪魔にならない。ユニフォームの胸ポケットやストラップにつける使い方もできる。

3時間の充電で約25時間使用。通話可能距離は約100m。中継器を設置すれば障害物の多い所でもクリアな会話ができる。

ボタンによる送受信の切り替え以外に、ハンズフリーでの自動切り替えも可能で、手が離せない状況でも利用できる。

実勢価格：1万6,000円～

☎：0120-464-007

同時・多重通話で効率化「IP500H」

―アイコム―

同時通話が可能なインカム。通常、一人が話すと、ほかの人は聞くことしかできないが、本製品では同時通話ができるので、ストレスのない自然な会話が可能。多人数による多重通話機能では、他業務中でも会議のような使い方もできる。

高い防水性（水深1m・30分浸水にも耐えうる）により、入浴介助中も装着したまま対応できる。

オプションでGPS機能も。送迎時に持ち出せば携帯すれば、送迎状況や最適なルートをその都度事務所のモニターで共有できる。

価格：要問合せ

☎：03-5645-6164

ALINCO

ICT導入支援事業の補助対象製品です。

特定小電力トランシーバー DJ-PX7

中継器で通話距離が伸ばせます。

だれでも資格・免許不要で使える
連絡用トランシーバー（インカム）の
リーディング・メーカー、アルインコ。

製品、販売店、カタログのご用命…
何でもお気軽にお問い合わせください。

用途に合うモデルがきっと見つかります！

0120-464-007 ガイダンスで2番（月曜～金曜　10～12時、13～17時）

アルインコ株式会社　大阪府大阪市中央区高麗橋 4-4-9 淀屋橋ダイビル　営業支店：東京・名古屋・大阪・福岡　：www.alinco.co.jp 電子事業部　：edomestic@alinco.co.jp

おかげさまで83周年

わたしたちの夢は移動・移乗用具を通じて、
腰痛のない「安・楽・満」の介護を実現することです。

介護リフト つるべ シリーズ
「介護リフト つるべ」は、自分ひとりで移乗が出来なくなった方や移乗が出来なくなった方の活動範囲を拡大します。

床走行式リフト
Y6セット（ワイシックス）
圧迫感軽減！フレーム高はわずか115cmと従来よりもさらにコンパクト。
6輪の自在キャスターにより、回転性が向上し、さらに操作性がアップしました。
リフトの脚部下部が大きく開いているため、車いすや足が干渉しにくい安心設計。

ベッドからの移乗をお手伝い
Bシリーズ
アームが360度回転するため、広い範囲で使用できます。組み立ても とても簡単です。

快適な入浴をお手伝い
F2Rセット

脱衣室から浴室へ移動するときは、2関節タイプがお勧めです。狭い入口からの出入りがとてもスムーズで、トイレでも使用可能。

お電話でのお問合せはこちら。
0120-65-2525（ろーご にごに ご）
移乗用具の専門メーカー
MORITOH CORPORATION 株式会社モリトー
まずはホームページでご確認ください。 モリトー 検索
http://www.moritoh.co.jp
[E-mail] info@moritoh.co.jp　全国ネットワーク（営業所）札幌・仙台・東京・埼玉・中部・静岡・大阪・岡山・福岡

「抱え上げない介護」で
自立支援＆腰痛予防

人材確保等支援助成金 対象
移乗用リフト「Likoシリーズ」

「Likoリフト」の豊富なスリング・ハンガーで
ご利用者に最適なケアを提供

約280種類 スリングシート
脚分離型スリング　歩行訓練用スリング　トイレ用スリング
×
10種類 スリングバー
スリングバーはワンタッチで付替え可！

天井走行リフト　居室・浴室・リハビリ室など様々な場面でご利用できます。
据え置き式リフト　工事不要の組み立てタイプで簡単設置。在宅での移乗に。
床走行リフト　車椅子のアプローチがしやすく移乗がスムーズ。

床走行リフトを使った歩行訓練

介護保険レンタル対象製品もございます。詳しくはお問い合わせください。

シーホネンス株式会社
0120-20-1001　seahonence.co.jp
【拠点】札幌／仙台／東京／神奈川／名古屋／大阪／高松／広島／福岡／宮崎／南九州／沖縄
【本社】〒537-0001 大阪市東成区深江北3-10-17 TEL:(06)6973-3471　FAX:(06)6973-3440

製品カタログ請求はこちらにアクセス！▶ シーホネンス 検索

「シーホネンス」は、seahorse（シーホース＝タツノオトシゴ）とhonest（オネスト＝誠実）を組み合わせた造語です。「seahorse（タツノオトシゴ）」は幸せのシンボルで、また、いつも立っていることから、早期離床への私たちの願いを、「honest（誠実）」は、お客様の笑顔のためにものづくりに取り組む私たちのお約束を、それぞれ象徴しています。

シーホくん